

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202080		
法人名	医療法人わかば会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	〒857-0016 長崎県佐世保市俵町22番1号		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年11月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院内にあるGHのため24時間体制で医療と介護の連携がとれている。 看取りにも対応しており、病院と連携して最後まで対応できるようにしている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年10月27日

当ホームは母体医療機関の5階に併設し、3ユニットで運営している。国道沿いにあり、バスの停留所や商店街、派出所、中佐保駅、学校などが近隣に点在している。バスやMR鉄道といった公共交通機関との利便性が良くアクセスに恵まれており、家族や職員にとっても面会や通勤が容易にできる環境下にある。各ユニットは事務所を通して繋がっており、ユニットの職員同志が互いに助け合い、協力し合いながら入居者支援に繋げることで、職場の安心感を醸成している。各ユニットとも管理者と職員との関係性が良好で、互いに信頼し合っていることが入居者にも伝わり、入居者との信頼関係の構築に繋がっている。週1回、訪問看護の看護師が入居者の健康状態をチェックすると共に、夜間時の急変や看取り期についても主治医や看護師との迅速な連携により、医療面に関して入居者・家族・職員の安心感に繋がっている。建物内には医療機関のほか、訪問介護事業所・居宅介護支援事業所・デイケアセンターが併設し、必要に応じて多職種が連携して各専門分野から提案や助言を得ることができ、本人や家族、地域にとっても安心感が持てるホームとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 わ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念表を職員の目に付く所に掲げて、職員一人一人が意識し、常に心掛け行動している。	各ユニットでは職員が目につく場所に法人理念を掲示している。ユニット毎に年間目標を立て、理念に沿った支援と目標達成に向けた日々の支援を実践し、年度末には実践状況と共に理念を振り返り、新たな理念の作成を行っている。状況によっては、次年度に目標を持ち越して再度目標を達成できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の夏祭り等に利用者様と共に参加したり、買い物に行ったり等していたが、現在コロナが流行っており、参加出来ていない。	現在、コロナ禍の為地域の商店街や近隣住民との交流を自粛している。尚、職員との顔馴染みの関係ができていく地域住民から自分の親の介護に関する相談を受けるなど、地域との繋がりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々達との交流はほぼない。運営推進会議委員会に参加して頂く民生委員の方々達に、グループホームや認知症について理解して頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っていたが現在コロナウイルスが流行っている為、文章にてまとめて郵送行っている。サービス向上についてはまだまだ中々実行出来ない時もある。	運営推進会議は民生委員、知見者、市長寿社会課職員、家族代表で構成している。現在コロナ禍の為、書面によりホームの現状、事故、活動内容、身体拘束状況等を記載し送付している。議事録はホームからの報告のみ留まっている為、今後、各構成員からの意見を反映させ、双方向の質疑応答等を記載した議事録を残すことが求められる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があれば聞いたり行っている。運営推進会議委員会に地域包括支援センターの方が参加されており、担当者とは電話等で連携は取れている。	市長寿社会課職員が運営推進会議の構成員となっており、連携を図っている。地域包括支援センターとの関わりについては直接的な連携や協力関係の構築までには至っていないため、地域密着型の特性を踏まえ、今後はグループホームとしての協力体制を築くことや情報共有ができる関係性の構築を図ることが課題と言える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同正しく理解している。スタッフ会議の3月9日は身体拘束についての確認を行っている。入所者様の状態を見て月一回のスタッフ会議の時に検討し拘束中止に努力している。3ヶ月毎にGH内のリーダー会議を行っている。その際にも身体拘束について話し合いを行っている。玄関は24時間解除している。	現在、入居者数名に対し家族への説明と同意のもと、経過観察の実施、再検討会議を行い、身体拘束に関する3原則を満たし緊急やむを得ない身体拘束であるとの認識のもと、4点柵、ミトン、つなぎ着用等が行われている。当該実施内容は運営推進会議においても報告されている。	身体拘束を行う場合、「切迫性」・「非代替性」・「一時性」の要件を満たし、かつ、それらの要件の確認等の手続きを極めて慎重に実施したケースに限られている。現状のケースが本当に代替する方法はないのか、最短の期間となっているかなど常に検討するとともに、あらためて入居者への心身状態を正確にアセスメントし、現場での議論と工夫を積み重ね、身体拘束を行わなくてもよい状態を実現することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの影響で現在、研修会等参加が難しいが勉強会は参加している。入所者様への言葉遣い、対応等に気配り、目配りに注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所者様に活用されていた方がいた。自立支援事業所の方・後見人の方と連絡を取り合う事で学ぶ機会があり、協力も出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナの影響で直接会っての契約等がなかなか難しいところであるが、対応には十分気を付けて入所退所の前に説明の時間を設け納得された上で契約や解約を行っている。契約改定には文書で各家庭に通達し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、当事業所以外の公的機関を重要事項説明書に記載している。運営推進会議に家族も参加されている。要望等受けた際は代表者・職員で検討し出来る限り満足して頂ける様に努力している。	コロナ禍により面会制限を実施しており、家族の意見や要望を直接聞き取ったり、入居者の状況を報告する機会が減少傾向であったが、最近家族の要望を検討し面会制限の緩和を図った。引き続き家族への意見や要望を聞き取り、入居者の生活の様子を伝える機会を増やすことが求められる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議の議事録を代表者に提出している。問題等があれば管理者は代表者・企画室長と相談し、より良い方向へと反映出来る様努めている。	毎月、各ユニットで職員会議を実施し、入居者への支援に関する意見を出し合い、職員の意見を反映できるよう取り組んでいる。管理者は職員の意見や要望について法人内の担当部署に報告し、意見等が実践に結びつくよう努めている。職員への希望休の対応、有給休暇の消化など可能な限り要望に沿うよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の把握はまだ多くの改善すべき点はある。代表者は給与水準・労働時間条件の設備に少しずつではあるが努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修案内は全員に回覧し、個々のスキルアップに繋げていく様な促し、機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍でGH協議会主催の講習会等ができない状況であるが、講習会には交代で必ず参加している。職員会議の時に講習内容を伝え、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、もしくは家族の要望等を聞き、職員一同が把握し安心確保に繋がる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聞き、困ってる事・不安な事を無くし要望に添え良好な関係づくりが出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を把握し、本人と家族が現在どのような支援を必要としているかを見極めケアプラン作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と介護される方という関係性では無く、家族のような気持ちで接しており暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には無理のない程度に家族の協力を得る等共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者は高齢で介護度も高く馴染みの人や場所との関係性を維持するのは難しい方が多いが、馴染みの美容室に行かれるよう手配や送り迎えを職員で行っている方もいる。	入居時に入居者の生活歴や馴染みの関係性について本人や家族に確認し把握するよう努めている。職員は入居者とのコミュニケーション時に新たに知り得た情報を申し送りノートに記録し、職員間での情報共有に努めている。入居者の高齢化や重度化、コロナ禍の影響により、馴染みの人や場との関係継続が困難な状況にあるが、本人の希望に応じて美容室へ外出支援を行う等できる範囲で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで席を決める際には、ご近所に住まわれていた方を近くにして会話が弾むようにしている。職員が会話の橋渡しをする事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方への継続的な支援は行っていないが、問い合わせなどがあれば情報の提供はしている。当病院に入院された場合には度々面会に行き不安を取り除くよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際、ご家族やご本人の希望を細かに聞き取りしている。6か月ごとの評価の際にも聞き取りして可能な限り希望にそのようなケアプランを実施している。	職員は日々の入居支援を通じて本人の思いや意向を汲み取るよう努めている。また、家族の意向の把握については以前のように面会時に確認することはできていない。今後、面会を緩和に伴い意思表示が困難な入居者には家族へ再確認を行うと共に本人本位に検討する意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族に生活習慣や趣味などを尋ね全ての職員が共有出来る様にカルテに記載してケアに活かせるよう努めている。		
25	a	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日カルテにバイタルやどのように過ごされたか記載している。特に変化ある時は申し送りノートに記載したり、口頭でも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の心身の状況を考慮してた上でよりよく暮らす為にどうしたらいいか、職員と家族で意見を出し話し合って介護計画を作成している。	各ユニットの介護計画作成担当者や介護支援専門員は3か月及び6か月の介護計画見直しの際に入居者や家族へ意向を確認し、介護計画を立案している。介護計画案は職員会議に諮り、意見を求めてサービス担当者会議を通じて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々どう暮らされているかケアを行ってどうだったかやこうしたらどうか等、カルテや申し送りノートに記入し情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・その時々生まれるニーズに対しては、既存のサービスに捉われない柔軟な支援を行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が介護度が高く、心身の力を発揮した地域資源との協働は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である為かかりつけ医による訪問診療を月二回受けおり、他病院専門科への受診に家族対応で月一回行かれる方や歯科の往診を受けられており支援出来ている。	月2回、入居者は同法人の医療機関の医師による訪問診療を受診している。入居者の疾病について、その専門性に応じて専門医療機関を受診しており、その場合は家族が専門医へ同行している。歯科は必要時に歯科医の往診を受けている。他科への受診については家族が同行対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。状態の変化があれば看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には必ず申し送りを行い、必要時には連絡を取り合う体制ができている。面会を心掛け、状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院内施設の為、医療関係者と連携を取りながら健康管理を行っている。重度化が見られる場合今後の対応等、医師を交え家族と話し合いが持たれている。	入居時に本人や家族へホームでの看取りに関する指針を説明し、本人や家族の意向を把握している。看取り期の判断と家族への説明についてはカンファレンスを実施し、医師から家族へ伝え、あらためて意向を確認し、意向に沿った看取りの支援を行っている。介護支援専門員は看取り期の介護計画を作成し、職員は計画に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体が病院であり、急変や事故発生時には看護師にすぐ連絡し医師に指示してもらえるように体制は整っている。以前にAEDの講習を行っていた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	病院全体での避難訓練を年2回行っている。スタッフ会議で話し合う場をもうけている。	年2回、避難訓練を実施している。消防署立会いのもと新人職員を中心とした受信器・報知器・非常灯・誘導灯・消防設備の説明や消火器操作訓練・通報訓練、コロナ禍による座学での消防設備説明、誘導方法の確認訓練等を実施している。職員は消火器を使用した初期消火ができるよう訓練を行っている。現在、非常時の役割分担については検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って、人生の先輩として対応している。言葉掛けをする際には声のトーンや速さに気をつけて対応している。	職員は居室に入室する際は必ずノックし声掛けした上で入室するよう心掛けている。入居者がフロアで過ごす時間に入室が必要な場合は、本人の許可を得て、物盗られ妄想とそれによる不穏等の症状を持つ入居者への対応やトラブル回避に努めている。また、排泄についても入居者の誇りを傷つけない対応に心掛けている。	コロナ禍により外部研修を受ける機会が減少していることが窺える。例えば年間研修計画の中に接遇マナー研修を位置づけるなどのほか虐待や身体拘束といった必須の研修を計画的かつ継続的に実施することが望まれる。外部研修に代わるリモート研修への参加やDVD等を活用した内部研修の実施等、今後、研修の機会を充実させることでその方を尊重した取り組みに繋げて行くことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ多く、コミュニケーションを取り、利用者本人の希望に添える用心掛けている。自己決定がしやすい様に、言葉掛けに気をつける様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日程はあるが、臨機応変に対応し、利用者のペースに合わせられるように、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の身だしなみ(おしゃれ)ができる様に整容には注意を払っている。本人用のブラシを常備し、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 かく	身体機能の低下により、準備やかたづけをする事は難しいが、盛り付けや温度に配慮し、好みの味付けになるように心掛けて、食事を楽しんで頂ける様提供している。	食事は母体医療機関の管理栄養士が献立表を作成している。法人内の厨房で調理された副食を提供し、炊味噌汁の具材は厨房で調理後、ホームで味噌を入れて提供している。入居者の嗜好やアレルギーには代替食を提供している。行事食の際には各ユニットで炊飯時に主食をアレンジしたり、食事に関して入居者の状況に応じてキザミやトロミなど食事形態を工夫し提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援	病院の管理栄養士がいる為、栄養バランスはほぼ摂れている。食事量も毎食確認を行い、水分も少ない方には、10時、15時に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で出来る方には、言葉掛けしながら行ってもらい、介助を要する方には、職員が介助して清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを活用し、個人一人一人の排泄パターンを職員で把握し、間隔が長くあいてる場合は言葉掛けを行っている。	排泄に関しライフチャートを使用して入居者個々の排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行っている。失禁時の対応は周囲に気づかれないよう声掛けを行い、プライバシーに配慮した支援に努めている。夜間帯は睡眠の妨げとならないようパッドの大きさ等の使い分けと、家族への経済的負担を考慮したパッド使用量を職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ライフチャートを記入し排便回数の把握を行い、水分の摂取を促している。それでも排便困難な場合は、必要に応じて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務等の都合で曜日や時間帯は個々の希望にそえていない。浴槽に入れない方には、足浴して温まってもらっている。	週2回、入浴支援を行っている。曜日と時間への拘りを持つ入居者には本人の希望に応じた支援や、異性介助を拒否する方にも希望に沿った入浴支援を行い、入居者が安心して入浴ができるよう取り組んでいる。皮膚疾患がある入居者には足元のマットを入浴毎にマットを交換し、感染防止対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の希望を尊重している。リビングでは長時間、座位状態にならないように臥床時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が届くと、薬手帳と処方薬の確認を行って変更があれば他職員に申し送っている。本人の状態によっては医師に報告して指示受けをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせたお手伝いをお願いしたり、歌などのレクリエーション活動をしている。その際には無理強いしないように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は困難である。しかし、本人の希望により行きつけの美容院には混んでいない時間を予約して行けている。	コロナ禍により日常的な外出はできていないが、近隣の美容室を利用できるよう美容室のスタッフに他の客が来ない時間を見計らって利用できるよう依頼するなど配慮している。また、春には近隣高校に咲く桜を見に行き入居者の気分転換を図る等、コロナ禍の現状においてホームでできる範囲での外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援	コロナの影響で外出が出来ていない為、本人がお金を使う事はほぼない。また、認知度が高い方も多くお金を所持されていない方も多。必要な物品は預り金から職員が購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の希望があれば、電話を取り次ぎ会話が、出来る様支援をしている。手紙を書かれる方には、切手買ったり、手紙を出してあげたりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地が良いように、室内の壁を写真など季節を感じられるように、飾りつけをしている。利用者様の作品なども展示している。	ホームはユニット間で行き来ができる造りで職員同志が互いに助け合い、協力し合いながら入居者支援に繋げている。職員は要所の清掃を行い、感染予防の為手すり等はアルコールで消毒し、清潔保持と感染予防に取り組んでいる。フロアには職員と入居者が共に作成した壁画を貼り、入居者が季節の理解ができる工夫を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーにてくつろげる室内作りをしている。会話を楽しむ方については話の合う方と隣同士で話せるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の写真で飾り、使い慣れた物を持って来て頂き、居心地良く、過ごしてもらえる様支援している。	入居時に本人や家族へ居室への持ち込み品について説明し、使い慣れた馴染みの物を居室に配置し在宅生活の延長として生活できる環境づくりに努めている。火気・刃物類、宝石類、大金等、持ち込むことができないものについても説明している。居室は日勤職員が毎日清掃し清潔保持と感染予防に取り組み、安心して生活できるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には写真付きのネームプレートを飾り、トイレや浴室には、安心して使える様に貼紙をし、障害物になるような物は置かないよう心がけている。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 か

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口付近に理念の掲示をしている。毎年、年度末には理念の振り返り・新たな理念の作成・確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のADL低下に伴い、地域との交流もなくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流がなく、理解・支援方法を活かす事は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を行っているが、現在はコロナ禍で会議が行えない為、書面会議を行い掻く担当の方に送付している。		
5	(4)	○市町村との連携	日頃、連携を取る事はなかなかないが、運営推進会議の際は意見等を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践	毎月スタッフ会議で身体拘束の見直しを行い情報を共有している。拘束のないケアに努めているが危険防止の為やむおえない場合もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は入居者の情報を共有し各自が虐待のない業務を心掛けており虐待の行為はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	以前に成年後見人制度を利用されている方がおられた。後見人の方と連絡を取り合い協力する事で学ぶ機会となった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にはご家族に説明し納得された上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望には検討し応えている。コロナウイルス感染症の流行により運営推進会議の場を設ける事が出来ていないが書面により情報交換出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い意見交換をおこなっている。問題があれば代表者や企画室長と相談しより良い方向に反映出来るように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は一人一人の状況を把握出来ていないと思われる。給与水準などは納得のいく様な条件に努めているとは思えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症の流行に伴い法人内外の研修会等は行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症の流行に伴い現在は勉強会や相互訪問等は出来ていない。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様より生活歴等の情報を取得し本人様の不安や要望に応えながら安心して生活出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、希望されている事はないか必ず話を聞き、希望に添えるよう信頼して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン等のアセスメントにより、ご本人様の希望・ご家族様の要望・必要とする支援が出来る様に対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ちに傾聴・共感するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、コロナウイルス流行で面会禁止になっており、面会が出来ていないが電話・手紙等で利用者様の状態・様子を伝え安心してもらえる様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ADL低下、介護度の状態により馴染みの場所に行くことはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢で介護度も高く寝たきりの方もいる為、皆様が関わり合い支えあう支援は行えていない。リビングに離床出来る方々は声を掛けあい関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、連絡が入ればその都度対応し、フォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安や希望に対して、対話し把握しているようにしているが、ほとんどが帰宅願望やこれからの不安などで話を傾聴する事は出来るが、検討、実行などは難しい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を家族や本人様から聞き、会話につなげ、これまでの暮らしの把握につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前午後のバイタル測定を行い、日々の会話、行動で現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン等のアセスメントにより、ご本人様の希望・ご家族様の要望・必要とする支援が出来る様に対応を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、バイタルをカルテに記入、気づきや工夫は申し送りノートを使い職員と共有し実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で外部よりヘアカットに来てもらえないところ、職員が本人様に許可を得て行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外部との接触はほとんど出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が訪問診療を行い、何かあればすぐに対応してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気が付があれば看護師へ相談ができる環境である。また、月2回の訪問診療で医師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には日頃の生活や対応の仕方等細かに申し送りを行い入院中は面会に行き対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場の説明を行い同意をして頂いている。本人や家族の意向を聞きチーム全体で共有し支援するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の仕方など身に付けてはいるが定期的な訓練は実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回、消火、避難訓練を実施しているが地域との協力体制は出来ていないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人その人の性格や対応の仕方が行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望をなるべく聞いてはいるが添えない場合もある。自己決定が出来るように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたいと言われる入居者が多い。居室へ訪室し問題がないか声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や身だしなみ等、離床した際や居室へ訪室した際に注意して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な方が多くほとんど職員が準備、片付けをしている。ミキサー食の方もいる為、食事の献立を配膳時に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の状態に応じた形態にして提供している。食事量が少ない方には補食をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方には、声かけを行い、できない方には介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを活用し排泄パターンを把握している。トイレに座ることができる方は、トイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水を促し、お茶が好みでない方にはできるだけ好みに応じた飲み物を提供している。便秘で下剤が必要な方には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の円滑な流れのため利用者の希望にそえていない。入浴は週2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がないように利用者の体調に考慮しながら適度に離床促し、夜間ゆっくり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、新処方あった場合は処方箋で効能、副作用を確認している。薬変更あった場合は申し送りノートにて職員内周知している。服薬時は職員内でダブルチェックを行い、誤薬事故防止に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歩行訓練をされたり、洗濯物たたみを手伝われたり季節ごとの行事の参加、誕生日のお祝いなど利用者の役割、楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦のため外出支援は実行できず。他病院へ受診される時には、ご家族様が付添われご協力いただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として、お金は預かり管理し毎日チェックすることによって残額の誤差がないように確認している。利用者に関心があり、買い物に希望があれば、職員が代わりに買い物に行き、買い物の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ渦もあり、面会は出来ないが、電話は要望あれば応じ、付添い支援している。本人手持ちの携帯がある場合は、それでのやり取りも可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内(リビング、廊下)の壁面の装飾を月毎に変え、季節感が出るよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	高齢、重度化に伴い、リビングに一人で過ごされる事は少ないが、リビング内にはソファがあり、くつろげるスペースが設けられており、自由にゆったりと過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持ってきて頂き、当時自宅で過ごされていた雰囲気や少しでも取り入れ、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内のトイレ、浴室等、場所が分かるよう表示している。手すりも設置している為、日常的な歩行や、ホーム内でのリハビリにも活用する事ができ、安全性の確保と、自立支援も出来る。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 は

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の目に付きやすい場所に、グループホーム全体と「は」ユニットの理念を掲げており、年度末には一年を振り返り次年度につながるよう、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が毎週建物周囲の清掃に参加しているが、利用者の方々の体力及び認知レベルの低下やコロナの影響もあり交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法を地域の人達に向けて活かすという所までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で2か月に1回行っていた会議が中止となっているが、書面にて意見等うかがい、サービス向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導の参加やGH連絡協議会の参加は行っており、協力関係は築いているが積極的とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会や、月1回のミーティングで身体拘束の現状やできるだけ拘束しないように対策を話し合っており、理解はできている。玄関は現在施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ウェブ勉強会を活用し虐待の防止について学び、他職員も共有できるよう会議で話し合う機会がある。職員同士で虐待にならないようにケアについて話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、利用される方が現在いないので積極的に学んでおらず活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。十分な時間を設け、説明するようにしており、疑問等あればいつでも尋ねてもらえるように努めている。また改定の際は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は直接職員に言われることが多くすぐ対応できているが外部者は表せる機会は設けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見があればだしてもらい、試したりそれについてまた話し合ったりして反映させるようにしている。代表者に関しては話を聞いてもらうことはできるがそれが反映されるまでには至っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の把握まではできていないと思われる。各自が向上心を持てるような環境や条件の整備には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人外の研修に関してはほぼタッチしていないので管理者で行っている。今はコロナのため外部研修は難しいが、法人内の委員会は月に数回ありスキルアップに繋がる機会を設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市のGH協議会に入会しているが、コロナのため開催ができていないので交流の機会がない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員が利用者と良い関係づくりに努め、本人の要望にできるだけ応えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナのため家族との信頼関係を築く機会は少ないができるだけ要望に応えることができるように職員間で情報共有しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要と思われるサービスを聞き、見極めをし柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で役割を持つことで、自分も手助けができていると思える関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会ができないので、書面や電話で日頃の様子を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は高齢であり、以前の生活場所・人間関係を維持するの困難である方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングでできるだけ過ごしていただき、食事や体操、レクリエーション、作業を通じて関わりあえるような環境を提供し、支えあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の別施設に移られた際は面会に行ったりと関係性は保たれているが、他事業所へ移られた際には関係性を保つことは難しい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を普段から聞き、日々の状態や会話等からも汲み取れるように、職員間で話したりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話せる方からは聞き取りで生活歴を作り、職員間で共有している。話すのが難しい方は家族に尋ねたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態に応じて過ごせるように気を配り、それを記録し、職員間で情報共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、担当者がアセスメントを行い、その時の心身の状態と照らし合わせながら本人がよりよく暮らせるよう、職員で話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々どう過ごされているか、どのようなケアを行っているか等、カルテや業務日誌、申し送りノートに記入し、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々生まれるニーズに対しては、まず話をよく聞き、なるべく迅速かつ的確な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のレベル低下やコロナのため活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であるためほとんどの利用者はかかりつけである。他にもかかっている病院があれば継続して受診できるようになっている。また本人の状態に変化があるときは伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診の他に、状態に変化があった時にはすぐに報告し、受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には状態を報告している。週1回の医療系の会議で退院予定を確認でき、数日に1回は様子を確認したり、看護師に状態を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際、「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し、同意をもらっている。状態が悪化した際など、ドクターと話し、家族や本人の意向をふまえ、支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体が病院であるため、医師・看護師の対応が迅速である。事故発生時や急変時はマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練が行われている。消火栓や消火器の場所の確認もしっかり行われている。居室では火気の使用禁止となっている。台所もIHにしている。日々の見守りでコンセント等もチェックしている。しかし地域との協力体制は不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自が意識しながら言葉掛けを行っている。 プライバシーを確保できるような対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通ができる方に対しては自己決定ができるように働きかけている。意思疎通が難しい方に対しては表情等から汲み取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールはあるができるだけ本人の気持ちを優先するように心掛けている。 職員の都合で行うときはお願いし協力していただけるような言葉掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人ができることは行っていただき不足分は介助して身だしなみを整えているが、おしゃれまではできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体的機能の低下により準備や片付けを一緒にすることはできないが、盛り付けや温度に配慮し食事を楽しんでいただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内に管理栄養士が在職しており、栄養バランスは考えてもらっている。一人一人に合わせた食事内容や量、水分摂取も必要に応じたトロミを使い確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔洗浄剤、スポンジ等を活用し毎食後ケアを行っている。不足分は介助しそれぞれに合わせて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行ける方は時間を見て声をかけたり誘導をしている。オムツをしている方や1人でできない方も希望されればPTイレを活用している。夜間はオムツに交換する利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やトイレでの姿勢、座る時間、下剤の服用等、個々に合わせて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴。時間は決まっているが本人の状態、希望により、入浴日や順番は変更可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息時間を設けている他、横になりたいと希望されるときは休んでもらっている。夜間は安心できる声掛けをしたりで安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の説明書をファイルし、いつでも見ることができる。薬が変更になったときは申し送りやカルテに記入し利用者の状態の変化充分注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みに合わせレクリエーション等を提供している。毎日オヤツの内容を変え楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のレベル低下、家族の事情、コロナ等のため外出支援はできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もいるが、大半は金銭管理が困難であるためこちらで預かっている。必要な際は職員や家族で買い物をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話は自由に使うことができる。TV電話も制限はあるが利用できる。手紙は自由にやり取りできるがほとんど出されることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた壁画や飾りを利用者の方々に見てもらえるように飾っており、居心地よく過ごしていただくように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格や相性などを考えリビングの席を決めている。手作業等も一緒に行っている。希望があれば席の移動は自由にできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベットや家具の移動は希望があれば出来る限り対応している。壁やタンスの上など好きな物で飾る事ができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のレベル低下により、介助が必要な方がほとんどである。できること、分かることを活かしながら介助したり言葉かけを行っている。		